

妊娠を考えている方、 妊婦と新型コロナワクチンについて

だいじょうぶ!
守ってあげるよ



◎間違った情報には惑わされない!

新型コロナワクチンの接種は2回以上接種した人が日本の人口の半数を超えました。2回接種後は、新型コロナ感染による死亡や重症者が大変少なくなっています。

新型コロナウイルスは、人類が初めて戦うウイルスです。人類の英知を絞って戦いを続けている真っ最中で、大変有効なワクチンという武器を開発しました。しかし、ワクチンにも弱点があり、副反応が多くの人に出るという点です。その為、接種後2日間は予定を入れないなどの準備をした方がよいと思われます。もちろん、ワクチンを打たないという選択をする方もみえます。選択は個人の自由です。ワクチンの副反応が怖いかな新型コロナウィルスが怖いかな厚生労働省などが出しているデータを元に、天秤にかけて判断していただけたらと思います。ただ、このワクチンで不妊になるとか流産するなどという間違った情報には惑わされない様にしましょう。

◎新生児もコロナウイルスから守るかも

妊娠中のmRNAワクチン接種をアメリカ疾病対策センターは、強く推奨しています。日本産科婦人科学会、日本産婦人科医会、日本産婦人科感染症学会も、時期を問わずmRNAワクチンを接種することをお勧めする、としています。また、妊娠中にワクチンを接種することで、新生児にも抗体が移行し新型コロナウィルスから守る可能性が報告されています。

現時点でmRNAワクチンにより不妊や流産、催奇性、胎児胎盤障害を起こすという報告はありません。ただ、通常でも妊娠12週(器官形成期)は、流産や偶発的な胎児異常が起こる可能性があり、医療機関で確認された妊娠の15%前後が流産になります。ワクチンを打ったせいではと自分を責めてしまう等混乱する可能性があるため、接種前にかかりつけの産婦人科医に相談しましょう。

授乳についても、接種後にミルク(人工乳)に変更する必要は無く、通常通り授乳できます。また、ワクチン接種により作られた抗体が母乳に移行し、乳児を新型コロナウィルスから守る可能性が考えられています。

完璧な治療法や薬はありませんが、この病をなんとかやり過ごしたいものです。

薬のギモン・質問は、お近くの薬局 もしくは、ぎふ薬事情報センターまで ☎058-247-5122

協力/ 岐阜県薬剤師会 〒500-8146 岐阜市九重町4-5 <http://www.gifuyaku.or.jp> 岐阜県薬剤師会 検索